

埼玉県絶滅危惧植物種調査団ニュース 第11号



マツバラン *Psiloyum nudum*

も く じ

＜標本調査報告＞埼玉県立浦和高等学校の植物標本について・・・	P. 2-3
活 動 レ ポ ー ト	
総会報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 4
第1回観察会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 5
第2回観察会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 6
NPO公開講座報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 7
あとがき・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 8

はじめに

2017 年 6 月埼玉県立浦和高校生物室の改修工事に伴い、生物室に収納してある標本類を埼玉県立自然の博物館に、寄贈する話が持ち上がった。埼玉県立自然の博物館より、そのなかの植物標本について整理してほしいとの打診があった。

7 月 11 日に浦和高校にて植物標本を受け取り、おおまかな整理と清掃作業を行ったが、管理状況はかなり悪く、廃棄せざるを得ない標本もかなり見受けられた。台紙に貼られて同定済みの標本は清掃・再同定後、仮ラベルを添付した。台紙に貼られていないものは同定後、台紙に貼り仮ラベルを添付した。

さらに採集データ（採集場所・年月日・採集者）の不足している標本や全くない標本も多数存在していた。このため、碓井徹氏より浦和高校生物部部誌（研究報告 8 号から 10 号）、（FAMILY 11 号から 23 号）、浦和高校生物部 OB 会会報、浦和高校同窓会会員名簿等をお借りし、不足分をできる限り補足してデータ入力を行った。このため一部は矢島の個人的見解があり、データが間違っていることも考えられる。採集者不明については同じ採集日、採集場所を参考に採集者を決定している。姓のみ記載されているものは、採集年を参考に同窓会名簿より姓名を決定した。

なお、整理済みの標本でデータのある標本は埼玉県立自然の博物館に収蔵し、データの不明な標本は浦和高校生物室に戻してある。

浦和高校植物標本の概要

整理済みの標本総数は 2018 点である。そのうち 71 点は教材用（教育品製造合名会社撰）に購入した標本で、採集データは付けられていない。それらを除いた維管束植物の総数は 1933 点である。新エングラー分類体系で見るとシダ植物 161 点、裸子植物 11 点、被子植物・離弁花 757 点、合弁花 607 点、単子葉 349 点、現在不明種 48 点となる。

種名が確定しているものの種数を見るとシダ植物 70 種、裸子植物 7 種、被子植物・離弁花 345 種、合弁花 271 種、単子葉 172 種となっている。

その他注目すべき標本としては、荻島睦巳氏（中 36 回卒）が採集したシャジクモ類 13 種である。これらは 1956 年～1959 年にかけて県内の各地の水田や池沼で採集されたものであり、現在県内では見られないものも多く、貴重なものと思われる。荻島は埼玉県植物誌（旧版植物 1962）に埼玉県産のシャジクモ類を担当しており、その際の参考標本の一部であると考えられる。

＜採集場所＞

標本の採集場所を見ると、現在国外となっている満州国産 10 点、台湾産が 2 点である。国内では埼玉県内産が 861 点、その他 317 点、産地不明が 756 点である。

県外では千葉県産 82 点（主に茂原市、長生村、勝浦市、清澄山など）、長野県産 79 点（主に八ヶ岳、菅平、軽井沢など）、福島県産 45 点（主に吾妻山、安達太良山など）、群馬県産 32 点（主に尾瀬が原、至仏山など）、東京都産 16 点（雲取山、高尾山など）が多い。他は熊本県 6 点、長崎県 9 点、岐阜県 9 点、静岡県 3 点、神奈川県 4 点、山梨県 3 点、栃木県 5 点、新潟県 7 点、富士山 2 点、日本アルプス 1 点がある。

埼玉県内産は当然浦和市産 478 点が目立つ。現在のさいたま市で考えると大宮市 80 点、与野市 2 点、岩槻市 2 点を加えて 562 点となる。その他では大滝村（現秩父市）151 点（主に雁坂峠、赤沢など）、小鹿野町 31 点（二子山など）、上尾市 23 点、秩父市 18 点、川越市 14 点、寄居町 11

点、荒川村（現秩父市）10 点、春日部市 10 点、飯能市 7 点、志木市 6 点、川口市 5 点、鳩ヶ谷市（現川口市）4 点、戸田市 2 点、越生町 2 点、川島町 1 点である。

浦和市の記録を見ると、ただ単に浦和市と記録されている標本が 51 点ある。さらに細かく記録されている標本は秋ヶ瀬が 154 点で最も多く、次に浦和高校がある領家 99 点がつづき、三室 42 点となっている。大宮市の記録はただ単に大宮市と記録されている標本が 23 点ある。さらに細かく記録されている標本は御蔵 23 点、東大宮 14 点などである。

注：大宮市（現さいたま市大宮区・西区・北区・見沼区）、与野市（現さいたま市中央区）

浦和市（現さいたま市浦和区・南区・桜区・緑区）、岩槻市（現さいたま市岩槻区）

＜採集年月日＞

採集年月日が確認できた標本は 1232 点で、年月日のいずれかが不明の標本は 786 点である。このうち 1945 年（昭和 20 年）以前（旧制浦和中学校時代）の標本は 53 点あるが、採集者が分かっている標本は 24 点となる。そのうち 2 点は採集者が高野脩（高 5 回卒）と佐藤喬穂（高 14 回卒）で採集日の誤記が考えられる。また、最も古い標本は 1926 年 7 月 27 日の記録で、採集者は小鮎隆昌（中 39 回卒）とあり、在学中の採集標本としては疑問が残る。

これらを考慮して最も古い標本は採集日 1927 年 8 月 3 日、採集地は満州（農事試験場熊岳城分場）、採集者は Suzuki - Kenzo とあり、須崎（中 27 回卒）と考えられる。このほかにも 1934 年 8 月 18 日台湾阿里山、大島新太郎（中 40 回卒）、1935 年 8 月 17 日満州国安東、採集者不明、1956 年満州国鎮江山、倉田浩（中 40 回）など外国産（当時は国内）の標本が見られる。

新制高校の第 1 回の卒業は 1949 年（高 1 回卒）となる。この時期には小杉昭光（中 46 回卒）が生物の教員として赴任しており、山梨県河口湖畔三ッ峠山（1948 年 6 月 10 日）からアツモリソウを含む 3 点の標本が作られている。1949 年（高 1 回卒）～1957 年（高 9 回卒）間の標本はおおよそ 400 点で、県内の標本以外に熊本県、長崎県、群馬県、千葉県、福島県など県外の標本が目につく。1955 年、1956 年（高 11 回卒）に採集した標本が 84 点残されている。これらは 31 名の採集者が浦和市内を中心に数点ずつ採集したもので、生物の授業の課題等で作られたものと思われる。1958 年～1980 年間の標本は生物部の活動で作られたものと考えられる。多くは部誌「FAMIY」にその採集記録が残されている。

＜採集者＞

整理当初採集者名の記載されている標本は 448 点で、記載のないものが 1498 点であった。その後、採集地や採集年月日、生物部誌等を参考に採集者が特定できるものがあり、最終的に採集者が特定できた標本は 797 点となった。また部活動で採集され、複数の採集者が考えられる場合は「浦和高校生物部」とした。これらを含めると 1357 点の標本に採集者の記載が可能となった。

個人として多く標本が残されているのは小黒晃（高 22 回卒）の 118 点で、ほとんどが浦和市秋ヶ瀬で採集されている。次に木村和喜夫（高 24 回卒）84 点で東大宮（見沼用水）や雁坂の夏合宿標本、岩橋主悦（高 28 回卒）64 点浦和市内を中心とした標本が残されている。この年代は前に述べた部誌の記録で、採集者が補足できたものである。

注目される採集者に小山鐵夫（高 4 回卒）がいる。卒業後東京大学に入学、同大助手を経て海外の研究員・大学教授、帰国後日本大学教授、高知県立牧野植物園名誉園長を歴任している、植物分類の長老である。高校生時代に採集した標本は 23 点残されており、その多くは千葉県茂原市産でナガバノイシモチソウやヒナノカンザシなど貴重なものも含まれている。なお、標本の一部には彼の同定ラベルがつけられている。

活 動 レ ポ ー ト

【総 会】

日 時：平成 29 年 5 月 28 日（日）10:00～12:00

場 所：さいたま市浦和区北浦和 カルタスホール第 1 会議室

出席者数：会員 49 名中 41 名（うち書面による出席 13 名）

今年は、役員非改選の年に当たり理事の改選はありませんでした。

新たに 2 名の新入会員と退会者 1 名の会員異動が報告されました。

牧野代表理事が議長を務め、以下の議題が審議されました。

平成 28 年度事業報告、決算報告、

平成 29 年度事業計画、予算案などが審議されました。

定款の変更

第 10 章 雑則

第 52 条にただし書きを加える。

「ただし、特定非営利活動促進法第 28 条の 2 第 1 項に規定する貸借対照表の告示については、この法人のホームページに掲載して行う。」

以上の議案は承認されました。

総会に先立ち「理事会」が下記のように開催されました。

日 時：平成 29 年 5 月 28（日）9:10～10:00

場 所：さいたま市浦和区北浦和 カルタスホール第 1 会議室

出席者数：理事 11 名中 11 名（内書面による出席なし）

平成 28 年度事業報告、決算報告、平成 29 年度事業計画、予算案、定款の変更などが審議されました。

【調査委員会議兼調査員会議】

日 時：平成 29 年 5 月 28 日（日）13:30～15:00

場 所：さいたま市浦和区北浦和 カルタスホール第 1 会議室

出席者数：会員 27 名

1 平成 28 年度希少野生動植物種選定調査(植物)報告書

2 平成 28 年度会計報告、平成 29 年度予算案

3 平成 29 年度に行うべき業務の打ち合わせが行われました。

調査する希少野生植物種の種類と調査報告書の記入について説明がありました。

【第1回 春の自然観察会】

日 時：平成 29 年 4 月 16 日（日）8:50～12:00

場 所：草加市柿木田んぼ

参加人数：32 名（指導者：矢島民夫理事） 天気：くもり

活動内容：春の水田あぜの植物観察会

草加市柿木公民館に 8 時 50 分集合し、開会あいさつや諸注意の後 9 時 10 分に公民館を出発する。公民館前の水田にはコイヌガラシが見られ、スカシタゴボウやイヌガラシとの簡単な見分け方を観察する。その後、農道を西側へと歩き県道東京平方線、東埼玉道路を横断し草加東高等学校北側の水田地帯に移動する。

幹線道路わきには外来種のナガミヒナゲシ、コマツヨイグサ、アメリカフウロなどの花が見られた。市内では普通となっているセイヨウタンポポとアイノコセイヨウタンポポ、在来種のカントウタンポポの違いについて解説する。田んぼの畦に生育するトキワハゼとムラサキサギゴケ、ハナイバナとキュウリグサなどよく似た植物の区別点を解説しながら移動する。



途中でヌマトラノオを発見するが、この時期はまだ花は付けていないため、確定することはできない。この付近の水路では、以前はふつうに咲いていたので間違いないと思われたが、後ほど確認していただいている。

水田地帯でも比較的外来植物が多く生育しているが、注意して見るとノジスミレ、コモチマンネングサ、ノミノフスマ、スズメノテッポウ、タビラコ、オオヂシバリなどの在来種も観察できる。

しばらく移動し道路わきの植え込みを見ると、ナズナの実が変わっている個体を発見する。よく見るとシロイヌナズナであった。この発見（報告）は埼玉では 2 例目で、よく観察する

と、思わぬところで発見があることを改めて知ることになった。

柿木公民館にもどり観察した植物を整理し、いくつかの植物について解説をする。この観察会は「そうか生きもの調査」の一環として行われており、初心者に市内の植物について興味を持ってもらうことを、中心に行われているものである。（文責：矢島民夫）



【第2回 自然観察会】

日時：平成29年11月19日（日）

場所：所沢市上山口「多摩湖・狭山湖畔周辺」

参加者：16名（指導者：山下 裕理事）

天気：晴れ

活動内容：雑木林と湿地の植物観察

西武狭山線、西武球場前駅に10時に集合し、狭山湖畔霊園 → 菩提樹池 → 多摩湖周遊道路 → 慶性院 → ダイタラボッチ（大多羅法師）の丘 → 狭山湖畔 → 西武球場前駅、15時解散というコースで行いました。

秋が深まる中、球場前から歩き出し、アキニレの街路樹に沿ってヒメガマの遊水地を通り過ぎ、狭山湖畔霊園へと進んでいくと雑木林が見えてきます。ここからは登りで、山道にはコウヤボウキ、ナギナタコウジュ、ノコンギク、ユウガギク、ヤクシソウ、センボンヤリの閉鎖花など、まだ辛うじて花をつけている植物を観察することができました。丘陵谷地の菩提樹池周辺には、キチジョウソウ、セキショウ、ヘラオモダカなど。雑木林の斜面には、キッコウハグマの花が多数咲いていました。この花は閉鎖花が一般的ですが、今年は白い咲いた形のタイプがよく見られました。



次に多摩湖畔の外周道路をモミジ類やヤマウルシの紅葉を見ながら歩き、慶性院、ダイタラボッチの丘に行き、イロハカエデ、オオモミジの下で昼食を取りました。



午後は、多摩湖畔の野鳥を観察しながら、狭山湖へ移動しました。途中、植物の根生葉を調べたり、カラスウリの赤い実を見ながら狭山湖堰堤に行きました。ここからは東側が所沢市内のビルディング街、西側が奥多摩の山々を眺めることができ、風光明媚なところです。春はサクラ、秋はモミジ、冬は野鳥観察と、多摩湖・狭山湖は一年中楽しめる場所です。（文責：山下 裕）

【NPO公開講座報告】

今年度NPO主催の公開講座を5回開催した。 日程、場所、内容などは下記のとおり実施した。

	日時	曜日	時間	場所	集合時間	集合場所	内容
1	4月30日	日	9:00～14:30	埼玉県民の森	8:50	県民の森駐車場	スマレ類など春の植物観察
2	5月21日	日	9:00～14:30	宝登山 熊谷高校の森	8:50	宝登山有料駐車場	春の里山の植物観察
3	7月8日	土	10:35～14:30	三峰山	10:35	三峰山駐車場入口 料金所	初夏の山地の植物観察
4	11月18日	土	9:00～14:30	宝登山 熊谷高校の森	8:50	宝登山有料駐車場	秋の里山の植物観察
5	3月31日	土	9:00～14:30	さいたま市桜区 田島ヶ原	8:50	西浦和駅改札口	サクラソウ自生地及び周辺の植物

参加人数は、第1回14名、第2回15名、第3回14名、第4回14名、第5回17名、延べ参加人数74名であった。

第一回は埼玉県民の森にて植物観察会を実施した。スマレ類を中心に春の花の観察を1日かけて行った。

第二回は自動車の通れる山麓駅から通じる林道添いの植物の観察を行った。春の植物を観察することができた。

第三回は三峰山駐車場から妙法ヶ岳の途中のギンリョウソウなどの森の植物を観察した。ニホンジカの食害がひどく、食害の様子を参加者に知ってもらうことができた。



(宝登山観察会)

第四回は宝登山のあまり人の通らない山麓駅から南側の登山道を登りながらの秋の山野草の観察を行った。中腹は、森林が伐採され「熊高の森」として多くの木々が植林されていた。移植された木はまだ成長していないため、多くの草本類も観察できた。

第五回はJR西浦和駅から、都会の道路沿いの帰化植物を観察しながら、サクラソウ公園に



(サクラソウ公園観察会)

行った。現地ではボランティアの方の解説を聞きながら、サクラソウやノウルシ・アマナ・ヒロハノアマナなどの植物観察を行った。帰りには都会に残る水田や畑の植物観察を行った。

近々さいたま植物通信に、植物リストを報告したい。(文責・三上忠仁)

【あ と が き】

今年度は「環境省の第5次レッドリスト作成現地調査」が始まりました。平成29年度「県内希少野生動植物種」植物種選定調査報告書の作成も、例年のように無事終わることができました。

また、毎年繰り返される調査費の不足問題を何とか解決できるように、牧野代表理事はじめ努力しているところです。昨年に引き続き「侵略的外来生物の調査」報告も一部会員のご努力により実施され、さらなる充実した調査活動ができるようになったところです。

増補改訂版「フィールドで使える 図説 植物検索ハンドブック」はだいぶ落ち着いたようで、今年度は増刷などの話は伝わってきません。しかし、デジタル版の出版の話が出てきており、この話が実現するようなことになる、再び改訂作業が起きることも考えられます。

本年は会報「さいたま植物通信44号、45号」を発行することができました。「さいたま植物通信」は毎年2回の発行を考え予算を計上しています。当面は年2回の予定ですが、原稿の集まり具合では増刊も考えられます。長く続くようみなさんの寄稿をお待ちしています。

<表紙の写真>

マツバランは植物が地球上に姿をあらわした当時の面影を残している原始的なシダである。樹幹に着生または岩壁の割れ目などに生育する、暖地性の植物で県内での確実な自生地は1か所のみである。昔から園芸植物として人気が高く、多くの品種が知られている。また現在でも園芸目的に採集されることが多い。逆に園芸品から孢子が飛散し、逸出する個体も知られており、県内でも時々報告されることがある。表紙のものは都市公園内のサクラ（ソメイヨシノ）の樹幹に生育している個体で、逸出品と考えられるが確証はない。

埼玉県絶滅危惧植物種調査団ニュース NO. 11

2018年3月31日発行

編集・発行 NPO法人 埼玉県絶滅危惧植物種調査団

発行責任者 矢島民夫

事務局 〒350-1124 埼玉県川越市新宿町 1-3-16

TEL 049-241-5857

発行所 〒350-1124 埼玉県川越市新宿町 1-3-16

TEL 049-241-5857